

# オリーブの木

No. 56  
2015年 5月

認定NPO法人  
取得 特集号

皆様、お待たせいたしました！ 本年4月27日「聖地のこどもを支える会」が東京都知事から「認定NPO法人」として認証されことをご報告申し上げます。「運営組織および事業活動が適正であり、公益の増進に役立っている」など、規定要件を満たしているNPO（特定非営利活動法人）であると、公式に認められたのです。

認証番号は、27生都地第1号、有効期間は5年間です。

皆様が長年にわたり、中東和平のために、私どものささやかな活動を応援し続けてくださったからこそ実現できたことです。お一人おひとりに厚く御礼申し上げます。

ご承知のとおり、「認定NPO法人」へのご寄付は、団体・企業、あるいは個人を問わず、税制上の優遇措置が適用されます（詳しくは、5ページをご覧ください）。今後は皆様の善意がより有効に活かされることとなります。

イスラエル・パレスチナの政治的混迷の出口は未だ見えていません。経済・社会状況の悪化により、残念ながら、子どもたちの教育環境も厳しさを増しているのが現状です。

今、私どもは身の引き締まる思いで、新たなスタートラインに立ちました。「教育こそ平和への確かな道」という基本理念を実現すべく、より信頼に足るNPOとして、「教育支援」や「青少年国際交流」、それぞれの事業の一層の拡充を目指してまいります。

「聖地のこどもを支える会」が、これからもイスラエル・パレスチナ・日本の若い世代に「平和の種」を蒔き続けることができますよう、また一人でも多くの平和の担い手を世界に送り出すことができますよう、引き続き温かいお力添えを下さいますよう、お願い申し上げます。

理事長 井上 弘子



イスラム教の聖地「ハラム・エッシャリフ」とユダヤ教の聖地「西の壁」。遠くに見えるのは、オリーブ山。(エルサレム)



認定NPO法人 **聖地のこどもを支える会**

事務局 〒164-0003 東京都中野区東中野5-8-7-502

TEL & FAX **03-6908-6571**

E-mail : [ispalejpn@gmail.com](mailto:ispalejpn@gmail.com)

ホームページ : <http://seichi-no-kodomo.org>

郵便振替 : 00180-4-88173 加入者名 : NPO法人 聖地のこどもを支える会



Accountability  
Self-Check 2008

当NPOは、国際協力NGOセンター(JANIC)によるアカウンタビリティ・セルフチェックを受け、基準の4分野(組織運営・事業実施・会計・情報公開)について適正に運営されていると認定されました。

# 認定 NPO 法人おめでとう!

たくさんの方々からお祝いのメッセージをいただきました

## 高見 三明

カトリック長崎大司教区 大司教

「平和の架け橋プロジェクト in 東北」を主催している「NPO 法人聖地のこどもを支える会」が認定 NPO 法人として4月に承認されました。

今年で5回目となる「平和の架け橋 in 東北」の賛同者の一人として大変嬉しく思っています。

パレスチナとイスラエルの現地では出口の見えない暴力的な紛争が続いている中、そこの若者たちが、世界平和に対する責任の一端を今から担うのだという気持ちを共有し、さまざまな相異を認めつつ、人間同士の交わりと一致を実現し生きていって欲しいと願っています。

今後もさらに多くの支援を得ながら恒久的で安定した法人として、「平和をつくる人」を育てるため一層の貢献をしてくれるものと期待し、応援していきたいと思えます。

## クラウディオ・マイナ

聖地における学校・学院のための連帯事務局 事務局長

親愛なる支援者の皆様、

井上弘子理事長から、「聖地のこどもを支える会」が「認定 NPO 法人」として公に認証されたというお知らせをいただき、心から喜んでおります。これは皆様の長年にわたる、聖地の、特に幼く傷つきやすい子どもたちや若者たちのための支援活動が公に認められたということです。

皆様のもとには各方面の方々から、お祝いのメッセージが届いていることでしょう。私もその方々と声を合わせて心から「おめでとう!」を申し上げます。そしてこの機会に、皆様の聖地の子どもたちのための活動に対して、心からの感謝をもう一度述べさせていただきます。今年もまたご支援のおかげで、数百人の児童が学校で勉強を続けることができました。彼らは、エルサレムの貧困地域や郊外の町や村に住む子どもたちで、紛争の影響で経済的に大きな打撃を受け、社会的にも不安定な状況の中で生活しています。皆様も存じのように、このような影響を最も深刻に受けるのは子どもたちなのです。

この子どもたちに代わって、改めて真心からの感謝の意を表します。

## 鈴木 信一

聖パウロ修道会管区長

「聖地のこどもを支える会」が認定 NPO になるとのお知らせをいただきました。おめでとうございます。この度の認定は、この組織が着実に発展していることを証明するものです。一つの出会いと気づきから生まれた小さな活動が、皆様の理解と協力によってここまで育ち、組織を充実させ、やがて NPO となり、更に活動を充実させ、このたび認定 NPO と公認されるまでに成長しました。おめでとうございます!!

NPO 活動はお一人おひとりの支援なくしては成長できません。ここまでの歩みは多くの支援者の理解と協力と惜しみない支援の手に支えられています。この度の認定は、こうした方々の支援が認定されたことでもあると思います。長い地道な努力の認定です。

これからもますます実りある活動を展開されることを心からお祈り申し上げます。

## 市川 祐一郎

日本海洋掘削(株) 取締役社長

この度、貴会は、認定 NPO 法人に昇格されたとのこと、私どもといたしましても貴会の活動が広く公に認められたことを嬉しく思う次第でございます。当社は、海洋での石油・天然ガス井の掘削工



事会社で、主にエジプトや、ペルシャ湾岸各国などアジアから中東までの海域で、リグ（掘削船）を八基運用して操業しております。事業の特殊性や会社の規模から、社会貢献の仕方が限られておりますところ、当社のOBが貴会の活動に加わったことがきっかけとなり、当社としても、貴会の活動に共鳴し、多少でもお力添えができればと考え、2007年から寄付を始めました。今回の「認定」を機に、貴会の活動がますます盛んになり、現地の子どもたちが、平和に暮らせるようになることを願ってやみません。

### 中村 満

NPO法人長崎巡礼センター 理事長

この度、NPO法人「聖地のこどもを支える会」が、認定NPO法人として認可されたことに心から祝意を表します。貴法人のこれまでの活動が高く評価されたことの確かな証しです。今後も、特に「平和の架け橋」として永く活動できますよう祈念いたします。

### 福島 貴和

信州善光寺玄證院住職

この度、NPO法人「聖地のこどもを支える会」が、都知事により正式に「認定NPO」とされたとのこと、大変喜んでおります。

井上理事長をはじめ、この会に関わる全ての方々にとって、なお一層の活動の励みになるのではと思います。私の経験から推して、こういう機会を捉えて、チーム一丸になることが最も大切なことと考えます。

認定NPOとなった「聖地のこどもを支える会」が益々、世界平和のために飛躍できることを期待いたします。

### ステラ・ペドラッツィーニ

「平和の架け橋 in 東北」元スタッフ

NPO法人「聖地のこどもを支える会」の大いなる発展の時に、喜びとお祝いの辞を述べさせていただきます。

平和への思いに共感する、数人の有志により始まった「聖地のこどもを支える会」の活動の道りは、成功の喜びと同時に苦難の連続でもありました。

私は2010年の初めにこの会と出会って以来、

活動を支える一人となりました。これまでの5年間、活動支援メンバーとして価値観を共有し、ささやかながら貢献させていただいております。日本で理事会とともに働く機会をいただいた際には、チームの一員として温かく迎えていただきました。このような理由で、今まで会のミッションを分かち合い、信じ歩んできたすべての方々に、「認定」への昇格の祝辞を送りたいと思います。そして中でも「対話」こそが、中東和平実現の鍵となるとの確信のもとに活動を続ける井上理事長に心よりお祝いを申し上げます。

### ヤクーブ・ガザウィ

「平和の架け橋 in 東北」スタッフ

私は、「聖地のこどもを支える会」がこの度「認定NPO法人」となり、信頼されるNPOとしての資格を取得したことを心から嬉しく思います。スタッフや支援者の皆様の長年のご苦勞あつてのことと思います。

この法人は25年も前から、教育支援や、若者たちの交流プロジェクトを通して聖地の子どもたちを援助し続けています。特に交流事業は素晴らしく、イスラエル人とパレスチナ人、そして日本人の間に結ばれた永続性のある友情の実りという点で優れたプロジェクトだといえます。

私自身、2005年の第1回「交流プロジェクト」に15歳で参加して以来、10年間ずっとこのNPOにかかわってきたので、ある意味、この会の中で成長してきたといえます。

皆様の支援金は1円たりとも無駄にはならず、国籍や宗教や人種に関係なくイスラエル・パレスチナ人の子どもたちの教育の助けとなります。また、日常生活では出会うことのない若者たちのために対話や分かち合いの機会を作るために役立っているのです。

### アドリアーナ・シジリ

イタリア NPO「平和のオアシス」代表  
ディオミラ・トラベル（ミラノ）社長

「聖地のこどもを支える会」がこの度、「認定NPO」として認証されたとのこと、心からお祝い申

し上げます。貴会が長年にわたって実現してこられた教育支援や交流プロジェクトは、イスラエルとパレスチナの多くの子どもや若者にとってとても大切な活動です。彼らは残念ながら長年続く紛争の中で、不安定な状況の中で生きています。

もしあのコンクリートの壁が、そのまま若者たちの心や精神の中に建てられることがないように願うのであれば、幼い子どもの教育から始めなければなりません。

もし私たちが力を合わせて、彼らに「平和への確かな道筋」を教えることができれば、宗教や民族が何であれ、すべての子どもたちの尊厳を守り、「対話への道」を開くことにつながります。

貴会の活動は、新しい未来を拓く希望の種であって、かけがえのないものです。それは、イスラエル・パレスチナ・日本の若者たちが心を開いて話し合う機会をつくり、敵対心や復讐心を捨てて、平和と友情のうちに生きる体験をするという、対話の全く新しい土台を築いてきたからです。

貴会が、何年も聖地のための平和プロジェクトを倦むことなく続けてこられたことを感謝いたします。私は皆様のためにこれからも祈り続けます。皆様の活動はたとえ小さくても、平和達成の可能性をなかなか信じることができない全ての子どもや若者にとって、大きな励ましとなるからです。

**石黒 朝香**  
元当法人理事

この度は、認定 NPO となられましたこと心よりお祝い申し上げます。2005 年より貴会の活動に携わらせていただいた者として、たいへん喜んでおります。「平和をつくる子ども交流プロジェクト」を

はじめとする青少年交流事業に参加した多くのイスラエル・パレスチナの学生は、笑顔や涙とともに、毎回お互いのことを理解しあうことで平和への一歩を踏み出してきました。そうした場面に立ち会うことができた喜びとともに、この活動がご支援くださる方々の真摯なお力添えあってこそ成り立つものであることを痛感しております。

この認定が貴会にとって、日本から平和を発信し、中東和平のためよりいっそう活動の輪を広げていくチャンスとなりますよう、心からご祈念申し上げます。

**佐多 保彦**

認定 NPO 法人 聖地のこどもを支える会 監事  
TKB グループ 株式会社 TKB 代表取締役社長

この度、私が監事としてかかわっております「聖地のこどもを支える会」が、公に「認定 NPO 法人」の資格をいただくことができました。長年にわたる多くの方々のご支援の賜物と深く感謝しております。

十数年前に井上理事長と出会って、中東和平のためには「教育こそ平和への確かな道」という理念に共感して以来、監事として本会の活動を見守ってまいりました。またベツレヘム大学国際理事を数年間務めた経験から、紛争地イスラエルとパレスチナ双方の子どもたちの教育が将来の平和構築のためにどれほど大切かを実感してまいりました。

「認定 NPO 法人」として新たなスタートを切るスタッフ一同とともに、教育を通して将来の平和の働き人を育てるための活動を、忍耐強く続けていく決心を新たにしております。

引き続き、皆様の温かいご協力とご支援を心からお願い申し上げます。

### 『平和の架け橋in東北2015』プロジェクト支援イベントのお知らせ

イスラエル・パレスチナ・日本 友好の夕べ

**上原 令子** ゴスペルコンサートと  
ビュッフェのつどい

**7/11** (土) 17:00 (開場16:40)

聖パウロ修道会  
**若葉修道院 地下ホール** ¥5,000

**出川展恒** てがわのぶひさ  
NHK解説委員

**講演会** 混迷する中東情勢を読む

**6/28** (日) 12:00 (開場11:45)

**カトリック吉祥寺教会** ¥1,000

チケットのお申し込み・お問い合わせは…… TEL 03-6908-6571 (当法人事務局) TEL 090-6538-3255 (井上)

# 認定NPO法人への寄付は 税制優遇が受けられます

## 認定 NPO 法人とは…

NPO 法人のうち、運営組織および事業活動が適正であること、また、その活動が公益の増進に資することなど、一定の要件を満たすものとして、自治体から認定を受けたものです。自治体から認証番号が発行されます。有効期間は5年で、期間ごとに審査があります。

とに審査があります。

当法人の認証番号は **27生都地第1号** です。

認定を受けた NPO 法人は、寄付に対する税制優遇などで資金を集めやすくなると同時に、運営と事業活動全般にわたって、継続して要件を満たすことが求められます。

## 認定NPO法人への寄付は……

### 個人の場合 ⇒ 寄付金控除を受けられます

確定申告を行うことで税金が還付されます。「所得控除」「税額控除」、いずれか有利な方を選択することができます。※年末調整では申告できません。

**所得控除** 下記の計算式による金額が"所得"から控除されます。

$$(\text{寄付金合計} - 2,000\text{円}) = (\text{寄付金控除額})$$

※寄付金の合計の上限は、所得額の40%です。  
※所得税率は課税所得により異なります。

**税額控除** 下記の計算式による金額が"所得税額"から控除されます。

$$(\text{寄付金合計} - 2,000\text{円}) \times 40\% = (\text{寄付金控除額})$$

※寄付金の合計の上限は、所得額の40%です。  
※税控除の対象となる寄付額は、所得税額の25%が上限です。

### めやす

例えば1万円の寄付で、3200円が所得税から還付されます。

東京・神奈川など、自治体によっては住民税も対象となるため、1万円の寄付で4000円が還付されます。

### 法人の場合

#### ⇒損金算入限度額の枠が拡大されます

一般の寄付金の損金算入限度額とは別に、下記の特別損金算入限度額の範囲内で、損金に算入できます。

$$\left( \frac{\text{資本金等の額} \times \text{当期の月数}}{12} \times 0.375\% + \text{所得の金額} \times 6.25\% \right) \div 2$$

※詳しくは最寄りの税務署へお尋ねください。

### 相続人の場合

#### ⇒寄付をした相続財産が非課税になります

例えば、1000万円の相続財産がある場合、このうちの800万円を認定NPO法人に寄付すれば相続税の課税対象額は200万円になります。

※上記は金銭の場合です。不動産(土地・建物等)等は扱いが異なる場合があります。(みなし譲渡所得課税)

### 郵便振替で

支援目的に応じて、同封のリーフレットに刷り込みの振り替え用紙をご利用下さい。

●平和の架け橋プロジェクトへのご支援は  
平和をつくる子ども交流プロジェクト  
00190-2-389653

●聖地のこども教育へのご支援は  
NPO法人 聖地のこどもを支える会  
00180-4-88173

恐れ入りますが、振替手数料はご負担下さい。

### クレジットカードで

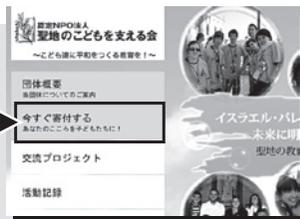
ホームページにアクセスの上、「今すぐ寄付する」ボタンをクリックして寄付ページに進んで下さい。

<http://seichi-no-kodomo.org>

聖地のこども

検索

同封のクレジットカード支援申し込み用紙もご利用いただけます。



# イスラエル総選挙の結果と中東和平

村上 宏一（当法人理事・元朝日新聞中東アフリカ総局長）

イスラエルの総選挙が3月17日に投票され、即日開票の結果、ネタニヤフ首相が率いる中道右派政党リクードが国会の120議席中30議席を獲得し、第1党となりました。ただし、過半数には遠く及ばず、イスラエル政治の常として複数政党による連立内閣を組むこととなります。この原稿が掲載されるころ（5月）に新政権が成立しているかどうかはわかりませんが、これまでのネタニヤフ政権と同じ右派色の強いものになるのか、国際社会の目も意識して中道色を取り込むのか、などが注目点です。

選挙前の世論調査では、建国以来長くイスラエルの政治をリードしてきた労働党や、ほかの中道左派政党が作った統一会派である「シオニスト連合」が第1党になるとみられていました。シオニスト連合は、パレスチナ和平交渉に否定的なネタニヤフ政権を批判しつつ、物価高に不満を持つ有権者を意識して経済政策を中心に選挙戦を戦いました。

これに対しネタニヤフ首相は、選挙戦の終盤に「私が首相である間はパレスチナ国家はできない」と表明、また「私に反対するアラブ系市民が群れを成して投票所に向かっている」という趣旨の発言をするなど、和平に反対しアラブへの嫌悪感を強める右派保守層の取り込みを図りました。リクードが改選前の議席に12も上乘せし、右派・極右政党が計11議席減らしたことは、それが成功したことを示しています。選挙後、パレスチナ国家否定の発言を撤回し、アラブ系イスラエル市民に関する表現について「傷つけるつもりはなかった」と謝罪したことからも、一連の発言が右派向けにアピールするのが狙いだったことがうかがえます。

選挙の結果の議席配分は、リクード30、シオニスト連合24、アラブ統一会派13、中道の「イエシュアティッド（未来がある）」11、「クラヌ（我らすべて）」10、右派「ユダヤの家」8、極右「イスラエルわが家」6、左派「メレツ」5、宗教政党の「シャス」7、「ユダヤ教連合」6となりました。

イスラエルの選挙制度は一院制の国会の120議席を比例代表制で選ぶもので、1992年までは投票総数の1%を獲得すればどの政党も国会に議席を得られました。少数者の意見も反映され、死に票がき

わめて少ない利点がある半面、多数の小党ができて連立政権しか作れず、少数派の意向に振り回されるという欠点もあります。1949年の第1回総選挙以来、単独で過半数を制した政党は一つもありません。その後、議席獲得に必要な「足切り」得票率は93年に1.5%、2003年には2%へと修正され、今回の選挙から3.5%に引き上げられました。

この改革は、アラブ系政党の躍進という副産物をもたらしました。イスラエルにはパレスチナ側との境界線内に残ったアラブ系の市民がいます。人口の約2割を占める彼らの地位は微妙です。「ユダヤ人国家」への忠誠を求められて素直に従える人がどれほどいるのか。敵対的なアラブ諸国に囲まれた中で、アラブの脅威を強調しパレスチナ人との共存に否定的なユダヤ人は、境界の「こちら側」に住む「潜在的なパレスチナ人」も脅威と見なします。そして右派勢力は「われわれに逆らう者はパレスチナ自治区へ追放すべきだ」と主張するなどしてアラブ系市民への憎悪を煽ります。これに対しアラブ系の側でも「人種差別に反対し対等な権利を求める」との意識が強まり、国会に代表を送る選挙への熱も高まります。これまでは主義主張の対立で、国会に議席を得ても複数の小政党に分かれていましたが、比例代表議席を得るためのハードルが高くなったことで議席を得られなくなるおそれが出てきたため、大同団結したのです。その結果、統一会派は第3党の勢力を得ました。

とはいえ、アラブ系政党が政権に加わることはありません。リブリン大統領から組閣に取り組みよう要請されたのは、第1党リクードのネタニヤフ党首です。同党首は、1995年11月に時の首相ラビン氏が暗殺された翌年の選挙で、労働党を破り首相になりました。パレスチナ側による自爆テロに怯え、領土を与えてパレスチナ国家を認めることに反対する機運の高まりを追い風にしました。

3年後に、一時的に採用された首相公選制で敗れたものの、リクードの右派を率い、2002年にパレスチナ国家反対を党内決議させて同党分裂の元をつくりました。09年2月の選挙ではマイランの核武装阻止▽パレスチナ自治区のガザ地区を実効支配

するイスラム強硬派ハマスへの攻勢強化マユダヤ人入植地拡大、といった強硬方針を掲げて躍進。第2党ながら宗教右派、極右政党の支持を得て連立内閣をつくり、首相に返り咲いたのです。

先に述べたように、今回の選挙でも強硬発言を繰り返し、予想を覆して勝利したのですが、その背景とみられているのはイスラエル国内に根強い「脅威に囲まれている」という意識です。脅威とは「イランの核」「ハマス、ヒズボラ（レバノンのイスラム教シーア派勢力）のロケット弾という目の敵」「ISなどのイスラム過激派の台頭」のこと。このようなムードの中では、領土を譲るなどの和解政策より強硬政策の方が支持を得やすく、ネタニヤフ氏は、そこを狙って右派のライバルから票を奪ったわけです。

ネタニヤフ政権の継続で、パレスチナ和平の機運はますます遠のいたという観測が圧倒的なのは当然でしょう。ただし、イランとの核協議を進めようとし

ているオバマ大統領の政策を批判して米政権との溝が深まり、入植地拡大を公言するなどパレスチナ和平に後ろ向きな姿勢は仲介役の米国だけでなく西欧諸国からも反感を買っています。国内でも、物価高など経済政策への不満が強く、それを吸収して世論調査ではリードしていたシオニスト連合を取り込むのも選択肢の一つです。シオニスト連合に加えほかの中道勢力とも組めば、優に過半数を取れます。しかし政権の主導権を中道にとらせたくはないでしょう。そもそも、和平問題で融和的な政策をとれば支持基盤の右派勢力から批判を浴びます。結局は中道右派から極右までの右の勢力に宗教政党を合わせた連立という、これまでとあまり変わらない路線に落ち着く可能性が一番高そうで、そうなればパレスチナ和平交渉の再開、進展という見通しはなかなか開けそうにありません。どういう連立内閣ができるか、気になるところです。

## つながりを活かして 2015 スタディーツアーのまとめ

高橋 秀哉

### ツアーを通しての感想

今回渡航前に一番関心を寄せていたのは hand in hand 学園の取り組みでした。なぜなら相手を理解するのに最もよい方法は相手と直接話すことだと思ったからです。またそのことで自分を見つめ直すこともできるからです。実際に、学校内では子どもたちが一緒に遊んだり学んだりする姿を見ることができました。しかし、そのような学校に通える子は多くはなく、パレスチナ側では学校へ行くことすら困難な子が多くいます。そのような子どもたちが学校に通い、正しい知識を身につけて相手を理解、尊重できるようになればと改めて思いました。

### ホームステイの感想

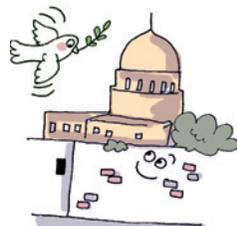
特にエルサレムでのホームステイが印象に残っています。美味しい料理でもてなして下さり、夜には一緒にお酒を飲んだりバスケットボールをしたりと、とても楽しい時間を過ごしました。現地の生活を体験できたのは、大変貴重な経験となりました。

### 心打たれたこと

テルアビブに戻ってきたときにショックを受けました。前日までのベツレヘムでは、キャンプで厳しい生活を強いられる人々に出会いました。その直後、イスラエル側では夜でも街は明るく、人々が bar などでお酒を楽しんでいる光景を見て、大きなギャップを感じるとともに、それが互いの理解への距離、ひいては和平への道への距離のように感じ、平和のために action をと思う私をやるせなくさせました。

少人数で（あるいは個別に）イスラエル・パレスチナの若者と話す時間がもう少しあればと思いました。ホームステイ先では、夜ゆっくりと色々な話を聞けたのでよかったです。

何より大きな収穫は、イスラエル・パレスチナの人たちと直接つながりを持てたことだと思います。このつながりを活かして今後も平和の活動に取り組んでいけたらと思います。





◀イスラエル・パレスチナの若者たちとの交流(ヤッファ旧市街散歩)

# ことしの春も、たくさんの出会いがありました！ スタディーツアー 2015 スペシャル

写真 浅野耕二、高橋秀哉、福島貴和



▲聖ヨゼフ学院の児童、校庭で日本人学生のための歓迎会を開いてくれた。(エルサレム)



▲聴覚障害児童のためのエフェタ学院で。大きな声で歌ってくれました。(ベツレヘム)



▲聖ヨゼフ学院で中学生と交流のひとつ(エルサレム)



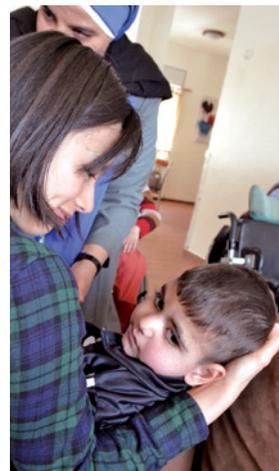
▶パレスチナのヤクーブとイスラエルのベレグ。プロジェクトで見つけた友情の絆。これからもこうして肩を並べて歩んでほしい。



▶ベツレヘム大学で、イスラム教徒の学生と楽しいおしゃべり。



▶ヨハネ・パウロ2世財団理事長、イブラヒム・ファルタス神父との楽しい出会い(ベツレヘム)



▲重度の障害者施設「神の子どもたちの庭」でボランティア活動。